

平成26年1月22日

高速道路資産の長期保全及び更新のあり方に関する技術検討委員会の

提言に際しての委員長コメント

東京大学工学系研究科総合研究機構特任教授 藤野 陽三

平成24年11月より1年余にわたり、NEXCO3会社で立ち上げた「高速道路資産の長期保全及び更新のあり方に関する技術検討委員会」における検討結果をもとに、有識者委員4名でまとめた提言を、NEXCO3会社を代表し、東日本の廣瀬社長に手交しました。

この提言には、高速道路の社会的な役割、現状と課題、高速道路資産の長期保全及び更新に係る基本的な考え方、大規模更新及び大規模修繕の実施時期、また、実施に伴う課題、更には、点検のあり方や、第三者等被害防止などが盛り込まれています。

本委員会ではNEXCO3会社が管理する橋梁、土構造物、トンネルの現状について、膨大なデータを分析し、今後、高速道路を永続的に使用していくために現時点で対策が必要と判断された対象構造物ごとの大規模更新や大規模修繕の対策工法とその適用に必要な技術要件を整理しました。このような高速道路本体の包括的な分析は、我が国においては初めて実施されたものであり、変状要因、必要な対策及び実施時期について一定の見通しを立てることができたと考えます。

なお、今回の検討結果は、現在までに顕在化した変状について分析したのですが、今後とも最新の点検データや最新の技術的知見を基に適時更新されていくべきものと考えます。

以上のようなハード対策の必要性に加え、維持管理サイクルを確実に実施するためのソフト的な対策や第三者等被害防止対策について、NEXCO3社での検討結果をもとに本委員会で助言を加え、提言に盛り込みました。特に、本委員会設立後に発生した笹子トンネルの事故を受けて、このような事故を二度と起こさないためにも、ハード・ソフト両面から維持管理を着実に進めることが必要と考えます。

今後は、本委員会で得られた知見は高速道路3会社において基準類の改定など必要な手続きを踏まえて、速やかに現場に展開し、適切な対策が講じられることを期待します。

最後に、国民の貴重な財産である高速道路資産が長期にわたって健全に保全され、その価値を高めながら、永続的にその重要な役割を果たすことを願って、結びとします。